

静岡県立静岡がんセンターホームページ
妊孕性温存について



静岡県立静岡がんセンター
妊孕性温存支援相談窓口
よろず相談
作成日：2024年6月



はじめに

近年、治療の進歩によって多くの患者さんががんを克服できるようになっています。しかし、治療の内容によっては妊よう性（妊娠する力）が失われたり、低下することがあります。妊よう性を残し、守る方法として生殖補助医療を用いた「**妊よう性温存療法**」「**生殖機能温存方法**」があります。

がん治療による生殖機能への影響

〈化学療法〉

薬の種類や投与量により、卵巣機能、精子をつくるための造精機能などに影響を与えます。

〈放射線治療〉

どの部位にどれだけ放射線を当てるかにより、卵巣機能、造精機能、脳で分泌される生殖機能に関するホルモンなどに影響を与えます。

〈手術〉

卵巣、子宮、精巣、膀胱摘出などにより子どもを授かることが難しくなります。

〔女性〕妊娠の可能性を残す方法（妊よう性温存療法）

〈未受精卵子凍結〉

がん治療を始める前に卵子をあらかじめ凍結保存しておき、がん治療が終わったあとにその卵子を使って妊娠を目指すことを目的とする方法です。原則として未婚、パートナーのいない方が対象になります。

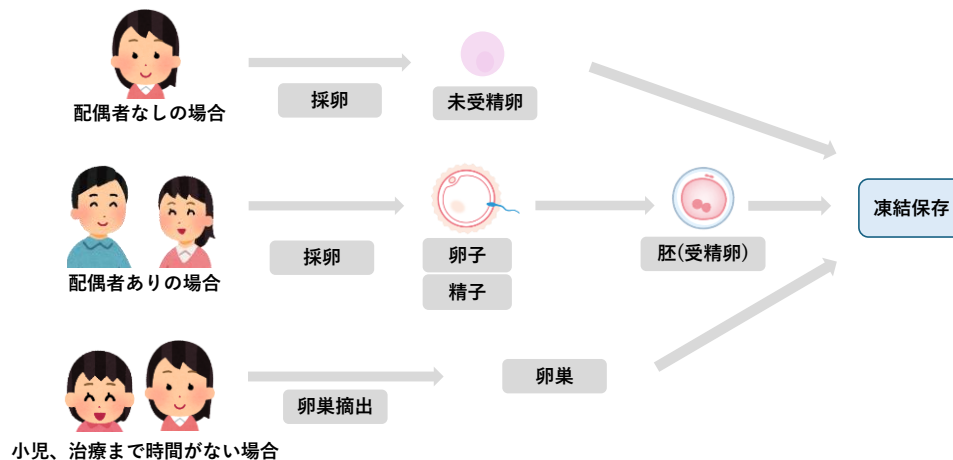
〈胚凍結〉

がん治療を始める前に採卵し、配偶者やパートナーの精子と受精させた卵子（胚）を凍結保存し、がん治療が終わった時に胚を子宮に戻す方法です。一般的に既婚、パートナーのいる女性に対して実施されています。

〈卵巣組織凍結保存〉

がん治療を始める前に卵巣を採取して凍結保存する方法であり、初経が来る前の患者さんやがん治療の時期を遅らせることができない患者さんについて有効とされています。

現在ではまだ研究段階とされ、実施できる施設も限られています。



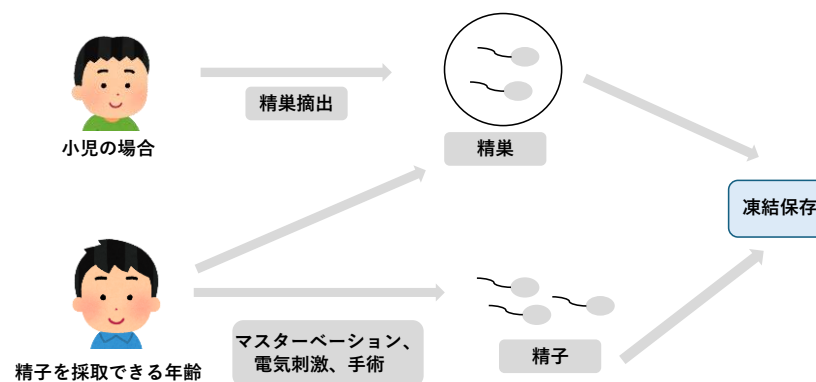
〔男性〕子どもを授かる可能性を残す方法（生殖機能温存方法）

〈精子凍結〉

マスターベーション等により採取した精子を凍結します。がん治療が終わったあとに、その精子を使って子どもを授かることを目指します。

〈精巣内精子採取術〉

マスターベーションで採取した精液中に精子がない場合に、精巣から直接精子を採取して凍結する方法です。（TESE といいます）



※妊よう性を温存するかについては、担当医との相談になります
※凍結保存しても、将来的に必ず子どもを授かることができるわけではありません
※もっと詳しく知りたいという方は、ご遠慮なくよろず相談までお越しく下さい